

二階堂トクヨとダンス

—— ダンスの研究と指導について ——

Tokuyo Nikaidou and dance

—about her dance research and dance instruction—

村山茂代

Shigeyo MURAYAMA

Abstract

This study will explore Tokuyo Nikaidou's (1880-1941) dance research and dance instruction at her schools.

In 1912, she was dispatched to England by Monbusho (the Ministry of Education), in order to study gymnastics at the Bergman-Österberg Physical Training College established by Martina Bergman-Österberg (1849-1915). She studied dance not only at the college, but also at private ballet studios and the English Folk Dance Society organized by Cecil Sharp (1859-1924). She saw great performances by Nijinsky, Pavlova, and Genée. After studying various fields of dance, she realized that dance can be an important form of exercise in girls' physical education. She returned to Japan in 1915.

In 1922, she established her own school (the Nikaidou Taisou Juku), which is a training school for physical education teachers. First of all, she researched the physique of students at the Nikaidou Taisou Juku. The result of this research was that the students had a poor physique in comparison with Western women. Moreover, the students' physique was in unbalanced development. She thought that Western dance was the best way to improve the students' physique, because Western dance contained various kinds of movement. So, she taught dance pieces that she studied in England and others. Her dance was very new in those days.

In 1926, the Nikaidou Taisou Juku was raised to the status of normal school in physical education (the Nihon Joshi Taiiku Senmon Gakkou). This time, she made the syllabus of dance and hired many excellent dance teachers from wide area in dance, such as, new dance, ballet, school dance, educational dance, gymnastic dance, and eurhythmics.

It was concluded that Tokuyo Nikaidou taught dance for the purpose of improving her students' physique.

keywords : Tokuyo Nikaidou, Martina Bergman-Österberg, Cecil Sharp

I. はじめに

二階堂トクヨ (1880-1941)¹⁾の創設による二階堂体操塾 (体操塾) および日本女子体育専門学校 (体専) では、ダンスを重視した体操科の指導を行っていた。特に、昭和初年頃からは学校体操教授要目に示されている教材の指導だけでなく、一流の舞踊家を起用してダンスの専門的な教育も実施していた。

トクヨの英国留学以前のダンス指導を推察できるものとして、明治37年女子高等師範学校文科を卒業して最初に奉職した石川県立高等女学校 (後に金沢第一高等女学校、現・石川県立二水高等学校) の運動会の記録がある²⁾。それによると、ダンス系の演目として扇を使用して踊る「表情遊戯」、カドリールやコチロンなど

の「舞踏」、プロムナードや歩法などの「行進遊戯」、井口阿くり (1870-1931)³⁾が導入した「ファウスト」や「ポルカセリーズ」などが行われている。これらのダンスは、明治期後半の女学校の運動会で一般に行われていた演目で、特に新しいものではない。

トクヨは「留学して始めて曲線運動⁴⁾のなにもなるかを悟った⁵⁾と述べているので、英国で経験し研究したダンスが、後の体操塾および体専での独自のダンス指導の基となったものと思われる。

トクヨについての研究として、西村絢子『体育に生涯をかけた女性—二階堂トクヨ—』(杏林書院、昭和58年)がある。この著書には、トクヨが英国から帰国して最初に教えた生徒であった戸倉ハル(1896-1968)が、二階堂清寿他『二階堂トクヨ伝』(不昧堂出版、昭和32年)にトクヨの教えたダンスの内容について述べたことを、そのまま転載しているのみで、著者による研究

日本女子体育大学 (非常勤職員)

は行われていない。また、最近の研究である穴水恒雄『人として女として—二階堂トクヨの生き方—』（不味堂出版、平成13年）では、トクヨのダンスについての考え方や指導などは特に扱っていない。

これまでに、トクヨは教育者として、また体育の指導者として語られて来たが、トクヨのダンスについての研究は行われていなかった。

そこで本研究は、留学時代にトクヨはどのようなダンスを経験し研究したか、その結果、ダンスをどのように考えたか、体操塾および体専でのダンス指導はどのように行われたか、以上の点からトクヨのダンスについての考え方を明らかにする。

研究の方法として、トクヨの著書、二階堂登久『體操通俗講話』（宝文館、大正6年8月）、櫻菊女史『足掛四年—英國の女學界—』（宝文館、大正6年9月）、トクヨの個人雑誌『わがちから』および留学中に家族へ書き送った書簡などを用いる。

II. 英国留学でのダンス研修

トクヨは、大正2年1月よりオスターバーグ (Martina Bergman-Österberg, 1849-1915)⁶⁾の創設によるキングスフィールド体操専門学校⁷⁾ (The Bergman-Österberg Physical Training College, 現・The North West Kent College) に約一年半在学してオス

ターバーグの薫陶を受けた。その他、サウスウエスタン・ポリテクニック体操専門学校でも1学期間受講した。

留学中文部省に提出した「外國留學生申報書」（お茶の水女子大学資料）によれば、The Bergman-Österberg Physical Training Collegeでラック (Miss Ruck)、ラザラ (Miss Rothara)、ストレーサム (Miss Stratham) の3人から、またサウスウエスタン・ポリテクニック体操専門学校ではネスールからダンスの指導を受けたとあるが、ダンスの具体的な内容については述べていない。

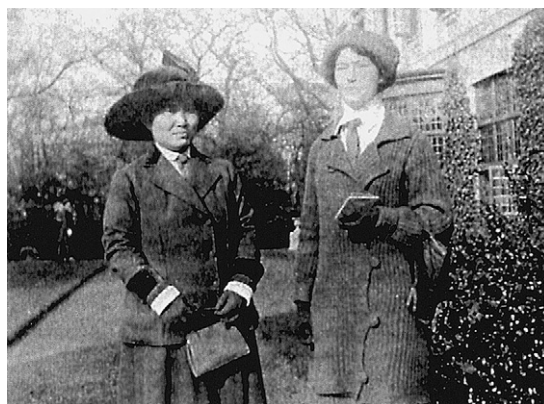
Jonathan Mayの研究によると、オスターバーグは早くからダンスの導入を考えて、フランス人の舞踏教師を採用して指導をさせた。そして、1900年にはスウェーデンのダンスを導入した。次第にダンスはカリキュラムに定着するようになって、1905年にはモリスダンス⁸⁾を導入したという。このように、オスターバーグは、英国の学校体育にダンスを導入したパイオニアであった⁹⁾。

1912年にオスターバーグは、ロンドンでリトミックのデモンストレーションを見学した後、リトミックの導入を考えて、1913年にダルクローズシューレに教師 (Miss Edith R. Clarke)¹⁰⁾を留学させた。それ故、トクヨが在学した当時はリトミックをまだ教えていなかったと考えられる。また、ダンカン (Isadora Duncan, 1878-1927)に影響された新しいダンスも未だ行われていなかった。

ロンドンには、音楽家のシャープ (Cecil Sharp, 1859-1924)¹¹⁾によって結成された The English Folk



Martina Bergman-Österberg
(日本女子体育大学 蔵)



留学時代の二階堂トクヨ
(The Bergman-Österberg Physical Training College Archives 蔵)



Cecil Sharp
(The English Folk Dance and Song Society 蔵)

Dance Society といって「英国民族の舞踏と音楽とを研究して以て、一には民族粹の保存を圖り、又一には其發展を期する」¹²⁾研究会があった。トクヨも会員となって研究会や夜会にも参加した。この会は学者、実業家、軍人、医者など、いろいろな階級の人たちが大勢会員となっていて、モリスダンス、ソードダンス¹³⁾、タンプリンダンス¹⁴⁾、カントリーダンス¹⁵⁾、フォークダンスを踊ったという¹⁶⁾。そして大正3年夏¹⁷⁾の一週間、シェイクスピアの生地 (Stratford-upon-Avon) で開催された講習会にも参加した。その時の「音楽の講師は、シャープ氏、舞踏の先生は當代の名手五六人、…舞踏の講師の一人が私の先生¹⁸⁾だったと述べている。舞踏の講師は何処で教えていた先生なのか明らかでない。The Bergman-Österberg Physical Training College Archives には教員名簿や講義内容を記した資料などは残されていない。しかし、シャープの著書が多数保存されているので、トクヨが留学した当時は、シャープの研究したダンス (モリスダンス、ソードダンス、カントリーダンス) を主に教えていたと考えられる。

体操専門学校での研究のほかに、大正2年12月17日より大正3年1月22日までの冬期休業中、ロンドンのサウスケンシントンにあるロガン (Mrs. Logan) の舞踏塾で13回の指導を受けた。ロガンは特にトウ・ダン

ス (バレエ) の指導に優れていることで有名であったという¹⁹⁾。トクヨは故国仙台の母親への手紙に「「つまさき」で立ち上って舞踏が出来るやうになりました」²⁰⁾と書いている。この舞踏塾でバレエの他に「英のホンパイプ²¹⁾、スコットランドのスコッチリル²²⁾、ウエールスのウエリッシュダンス²³⁾、アイルランドのアイリッシュジグ²⁴⁾等を何とか稽古する事が出来ました」²⁵⁾と述べている。

また、大正3年9月中旬には、ウォルツウオス夫人の舞踏学校で4回の個人教授を受けて、英国の国舞²⁶⁾と縄とび舞踏を研修した²⁷⁾。

以上のほか、トクヨは滞英中最も有名な舞踊家ニジンスキー (Vaslav Fomich Nijinsky, 1890-1950)²⁸⁾、パヴロワ (Anna Pavlova, 1891-1931)²⁹⁾、ジェネー (Adeline Genée, 1878-1970)³⁰⁾のダンスを鑑賞する貴重な経験をした。

日本では、大正元年に帝劇でイタリア人のバレエ教師ローシー (Giovanni Vittorio Rosi, 1867- ?)³¹⁾を招聘して歌劇部員にバレエの指導を始めたばかりであった。すなわち、バレエは日本人の中にまだ浸透していなかったのである。日本人として最初のトウ・ダンサー高木徳子 (1891-1919) が、アメリカでバレエを習得して日本デビューをはたしたのは大正4年のことであり、多くの日本人が本格的なバレエを最初に観たのは、大正9年パヴロワの日本公演の時である。それ故、トクヨは知識としてバレエを知っていたかもしれないが、バレエを習うのも、またバレエの本格的な舞台をみるのも初めてであったと推定される。パヴロワやジェネーの妙技に感動の涙を流した³²⁾。しかし、ダンサーとして、また新進振付家として最も注目されていたニジンスキーの舞台には違和感があった。郷里へ次のように書いている。

露國からの名男優ニジンスキーの舞踏を見にゆきました四円許りの木戸料でした当國人はニジンスキーに夢中になってゐます私には其妙技がわからないのか余り感心させぬ年の頃は二十二三才でせう立派な身体の青年でした³³⁾

以上のように多種類にわたるダンスの経験の結果、ダンスの身体に及ぼす効果を実感した。このことについて、弟の二階堂清寿 (1882-1976)³⁴⁾に次のように書いている。

専門に舞踏学習后腹筋の鍛錬せられし事驚く程に候そして此上やせたら其まゝには棄ておき難しと当校長代理に申され居る程ほそり申候ふとりのた

めに苦しむ事は昔話と相成り候嘗て先生に「此上ふとらばよろ志からず」と仰せられ候に今は丁度其反対と相成り候これまで色々と出来なかった運動が兎に角試み得るやうに相成り候は腹筋鍛錬の結果に候腕のよわきためとのみ存じ候ひしはあまりに候を発見仕り候³⁵⁾

そして「よき舞踏は躰操科の一部として眞に價値ある事をつくづくと知り申候³⁶⁾と、女子の体操科にとってダンスは重要な種目であることを認識し、未来への抱負をもって大正4年4月27日に帰朝した。

III. 二階堂体操塾—女子の体格の改善をめざすダンス指導—

The Bergman-Österberg Physical Training College にトクヨが留学していた当時、オスターバーグは「ヤパニーズガール(トクヨのこと)が歸ったら、ここにちなみを持ったクイーンズフィールド専門學校をたてるやうに祈ります、夫れには及ばずながら盡力ませう³⁷⁾と常に励ましの言葉を掛けてくれたという。尊敬する師の言葉は次第にトクヨの心に広がり、キングズフィールド体操専門學校に並ぶクイーンズフィールド体操専門學校を日本に建てたいと希望するようになった。清寿にあてた手紙に、「私は小冊子にものべがたき大望と許多の仕事が御坐候本も書くべく講習にも出べく學校も設立すべく候…兎に角廣義に於いての躰操科³⁸⁾満端をわが力にて日本に種を蒔きたいと存じ居り候³⁸⁾と述べている。

帰国から7年を経て、東京女子高等師範學校教授の職を退き、体育の研究と女子体育指導者養成の理想的な教育をめざして、トクヨは大正11年二階堂体操塾を創設した。

大正11年10月4日に処女会³⁹⁾指導者歓迎のために、塾で催した塾生の演技発表会で「體操」「遊技」「競技」を披露した。このプログラムからダンスについて検討する。

「體操」の部では跳躍運動の代わりとして「競技舞踏」を行っている。このダンスは、大正9年頃にアメリカ人ライアン(W. Scott Ryan)⁴⁰⁾を講師として東京YMCAで行った体育ダンスの講習会からの導入である。砲丸投げ、円盤投げ、槍投げ、マラソンなどの形を採ってダンスに仕立てたものである。トクヨは「何れもよい舞踏だ、男女共通で小供も喜ぶし大人も好きだ、それに最も體育的で結構此上もない⁴¹⁾と述べてい

る。

次に「遊技」の部では「ふたり遊び」「お馬さん」「萬歳」「ロボスタージク」「クログダンス」「三人遊び」「月見ポルカ」が行われた。

大正8年東京女子高等師範學校卒の内田トハと大正12年体操塾卒の御飯政重との共著『教育ダンス』(東洋図書株式合資会社、大正14年)には57種のダンスが紹介されている。そのうち36種はトクヨが教えたダンスで、その殆どは、イギリスから持ち帰ったダンスであるといわれている⁴²⁾。処女会指導者歓迎の日に行われた遊技もすべて『教育ダンス』に収められている。それによると、いずれもカドリールなどのような社交を目的としたダンスでなく、ポルカステップなどの活発な跳躍運動に上肢や上体の運動を加えた運動量のあるダンスである。

この日の演目の最後を締め括った「プロネード」は、「女子體育獎勵之歌」を歌いながら行う行進遊戯であった。この行進遊戯は、石川県立高等女學校の運動会でもトクヨの在任中から、その指導を行っていた。遊戯の作者は高橋忠次郎⁴³⁾である。高橋は坪井玄道⁴⁴⁾から贈られた Klara Hessling の著書 *Das Mädchenturnen in der Schule* (Berlin: Gaetner, 1896)⁴⁵⁾より採用したと述べている⁴⁶⁾。

これらのダンスは、開塾以来トクヨが一人で教えてきた遊技の一部である。留学中にトクヨが経験したダンスを中心に、最近に行われるようになった競技舞踏やよく知られている行進遊戯をふくめて、様々な運動を配合した多種多様なダンスの指導であった。

トクヨが体操塾を創設した大正11年頃は、わが国初の學校体操教授要目(大正2年文部省訓令第1号、1月28日)による指導が一般に行われていた。この要目では、ダンスは「發表的動作ヲ主トスル遊戯」と「行進ヲ主トスル遊戯」として位置づけられ、「發表的動作ヲ主トスル遊戯」の例として「桃太郎、渦卷、池ノ鯉、大和男子等」を、また「行進ヲ主トスル遊戯」では「十字行進、踵趾行進、「スケーティング」歩法等」を示している。要目のダンスに比べてトクヨのダンスは、跳躍運動を主に様々な運動を含んでいる。その当時としては、きわめて斬新なダンスであった。

トクヨはダンスを教える一方で、塾生の体格について研究し、結果を『わがちから』に発表している⁴⁷⁾。体育の指導者を志す塾生たちの体格は、日本人女子としては当然良い方と考えていた。ところが貧弱かつ異常な發育状態であることに愕然とするのである。すなわ

ち「第一に身體の發育の倭少なる事を云はねばならぬ、第二に身體の發育を代表すべき部分が悉く細い事を悲しまねばならぬ、實に頸胸腰が比較すべきものない程かばそいのである、第三に四肢が著しく奇態なる發育をしてる事怪しまねばならぬ、即ち臂の方では前膊が西洋婦人よりもより長いが、上膊部の發育の悪い事お話にならない、脚の方では下腿が日本男子にまさる發育をとげて居りながら、其大腿部は驚く程發育不良である、第五に股關節が完全に伸びて居ない事をあげねばならぬ」⁴⁸⁾とまとめている。

この様な異状な發育状態にある体格の改善のためには「脚に與ふる運動として舞踏が甚だ有効であります、尤も其舞踏は脚運動を主とするものであらねばなりません」⁴⁹⁾と述べている。また、股關節や上体のためには「臂を多く上へつかひ、鼠蹊部をよく伸展させそして胸をはり驅幹を合理的に使用するところの西洋舞踏がよいのである」⁵⁰⁾と、ダンスが効果的であることを主張している。その意味で上述の10月4日に行ったダンスは、トクヨ会心の教材であったと思われる。「現代の女子體育には先づ改善的運動が主で、趣味や娯楽的なものは副であらねばならぬ」⁵¹⁾と考へ、ダンスの指導は体格の改善をめざしていた。「運動の種類は単一に流るゝを戒めねばならぬ」⁵²⁾という指導の主旨から、ダンスにおいても上述の処女会指導者歓迎の日のプログラムにあるように、多種類の運動を配合した多種多様なダンスを教えたのであった。

このように、体格研究の具体的結果に基づいて、女子の体格を改善するためにはダンスが効果的であることを主張し、ダンスの指導を考えたのはトクヨが最初のダンス指導者であった。すなわち、ダンス指導のパイオニアである坪井玄道や高橋忠次郎は、外国のダンスを体操科に導入し、その指導方法を考案することに努力した。また、トクヨの先輩井口阿久りは、アメリカのボストン体操師範学校(The Boston Normal School of Gymnastics)でスウェーデン体操を学び、また、ギルバート(Melvin Ballou Gilbert, 1847-1910)の振付けによるエセティック・ダンス(Aesthetic Dance)の「ポルカセリーズ」と「ファウスト」を日本に持ち帰った。井口は、日本の女子の心身を鍛えるためにはスウェーデン体操が第一であると考え、ダンスの指導には消極的であった。したがって、ダンスの研究は行っていない。

以上に述べたように、体操塾でのトクヨのダンス指導は、女子の体格の改善を目ざして、留学中に経験し

たダンスを主教材に、多種類の運動を配合した多種多様なダンスによる指導であった。

IV. 日本女子体育専門学校—舞踊家たちによる指導—

大正15年3月24日に日本女子体育専門学校は日本で最初の体育の専門学校として認可された。更に、昭和3年には中等教員無試験検定の資格も許可され、トクヨの長年の夢が実現した。

昭和2年に、中等教員無試験検定の資格許可申請のために作成した体専の「教授要目」(日本女子体育大学資料)によると、本科一年のダンスは「文部省ヨリ示サレタル該科要目全部其俣ヲ教材トシ一學年間ニ教授完了ノコト」として、それに加えて唱歌遊技、上・下肢の基本練習、隊形や拍子の異なるダンスの指導を計画している。特に注目すべきは、本科三年で「藝術舞踏五種目」を計画していることである(表1)。一方、学校体操教授要目は大正15年に一次改正が行われて、小学校および高等女学校のダンスは、「歩法演習」と合計9種類の「行進遊戯」の教材からなっていた。トクヨは第一学年において文部省の要目に示された遊戯の指導を徹底し、その上に独自のダンス指導を考えている。トクヨの自信と意気込みがみられる。

塾創設当時は「當分實地は人手にかけませんが、其中には私の手におへなくなりますから、何が何でも夫れ夫れ卓越した先生にお頼みせねばなりません」⁵³⁾と考えていたように、体専の時代に入ると生徒数も増え、其の上、学校経営上の雑務をかかえ、トクヨは体力的にも時間的にもダンス指導に集中することは困難であった。そこで、自分にかわって教えることのできる人物として、ダンスのそれぞれの分野から一流の教師たちを採用した(表2)。芸術舞踊には、石井小浪、高田せい子、薦原マサヲ、貝谷八百子が指導にあたった。昭和初期において、芸術舞踊の教師によるダンスの指導を行っている学校は稀であった。遊戯には戸倉ハル、香川一郎、赤間雅彦、教育舞踊には升元一人、体育ダンスには澁井二夫、リトミックには天野蝶を採用した。また、東京YWCAのダンス教師としてアメリカより招聘されていたルシール・ウイルコックスを招き、英語によるダンスの指導を行うなど多種多様なダンスの指導を行った。

ダンスの授業時数も、昭和2年の教授要目では、本科の場合各学年とも週2時間であったが、昭和9年の

表1 遊技教授要目

本科第一學年	本科第二學年	本科第三學年
第一學期 凡十三週 毎週二時間 第二學期 凡十五週 毎週二時間 第三學期 凡十一週 毎週二時間	第一學期 凡十三週 毎週二時間 第二學期 凡十五週 毎週二時間 第三學期 凡十一週 毎週二時間	第一學期 凡十三週 毎週二時間 第二學期 凡十五週 毎週二時間 第三學期 凡十一週 毎週二時間
備考 本教科ハ一種目教授ニ長期ノ時ヲ必要トスルヲ以テ一學期毎ニ教材ヲ區分スルヲ不便トシ一學年ヲ通ジテ立案スルモノナリ 一 文部省ヨリ示サレタル該科要目全部其佘ヲ教材トシ一學年間ニ教授完了ノコト 二 唱歌遊技（唱歌ハ幼稚園小學校高等女學校教材ノモノ）約三十種目 三 足及ビ脚ノ舞踏の歩法基本練習各種 四 円形舞踏 五 隊形舞踏 六 方形舞踏 七 組舞踏 八 舞踏二拍子ノモノ三種目 九 舞踏三拍子ノモノ三種目	一 唱歌遊技（唱歌ハ幼稚園小學校高等女學校教材ノモノ）約二十種目 二 手及臂ノ舞踏の動作基本練習各種 三 円形舞踏七種目 四 隊形舞踏七種目 五 方形舞踏七種目 六 組舞踏八種目 七 舞踏二拍子ノモノ五種目 八 舞踏三拍子ノモノ五種目 九 手及ビ臂ノ動作ヲ主体トスル舞踏三種目 十 足及ビ脚ノ動作ヲ主体トスル舞踏三種目	一 歐米各國民族舞踏ヲ主トスル民族舞踏各種 二 円形舞踏八種目 三 隊形舞踏八種目 四 方形舞踏八種目 五 舞踏二拍子ノ部八種目 六 舞踏三拍子ノ部八種目 七 手及ビ臂の動作ヲ主体トスル舞踏五種目 八 足及ビ脚ノ動作ヲ主体トスル舞踏五種目 九 軀幹ヲ主体トスル舞踏五種目 十 藝術舞踏五種目

専修科の遊技教授要目は省略。原典は縦書き。

表2 二階堂トクヨが採用したダンス教師たち

氏名	専門分野	在任期間（年度）	本務
石井小浪	学校舞踊	昭和7年～昭和9年 昭和11年～昭和16年	石井舞踊研究所長
高田せい子 葛原マサヲ	バレエを基礎とした西洋舞踊 遊技・学校舞踊	昭和7年～昭和16年 大正15年～昭和2年 昭和14年～昭和16年	高田舞踊研究所長 石井舞踊研究所
貝谷八百子 戸倉ハル	クラシック・バレエ 唱歌遊戯・行進遊戯	昭和15年～昭和16年 昭和3年	バレリーナ 東京府立第六高等女学校
香川一郎 升元一人	唱歌遊戯・行進遊戯 教育舞踊	昭和17年？～昭和43年 昭和7年～昭和9年 昭和10年	東京女子高等師範学校 横浜市立横浜商業学校
赤間雅彦 天野 蝶	唱歌遊戯・行進遊戯 リトミック	昭和11年～昭和13年 昭和11年～昭和46年	日本教育舞踊研究所長 日本体育会体操学校 女子聖学院
澁井二夫 Lucille Willcox	体育ダンス アメリカのダンス	昭和11年～昭和22年 昭和6年～昭和7年	大日本体育ダンス研究会長 東京キリスト教女子青年会

* 在任期間は、毎年4月20日に文部省に報告した『教員調』（大正15年～昭和18年）を主要資料とし、卒業アルバムも参考とした。貝谷八百子のみ卒業生の記憶による。

学科課程によると、本科一学年で4時間、二学年で5時間、三学年で6時間と大幅に増加している。

以上に述べたように、体専では文部省の学校体操教授要目に示された唱歌遊戯や行進遊戯の指導だけでなく、独自のダンスの教授要目を作成して専門家から多

種類のダンスを学習させた。体格の改善をめざし、多種類の運動を配合した多種多様なダンスを指導をするという体操塾以来のトクヨの理念は貫かれていたのである。

トクヨの死（昭和16年7月17日）後、新理事長二階

二階堂トクヨ年譜

年 月 日	事 項
明治13年 (1880) 12月 5日	宮城県志田郡三本木村字桑折相ノ沢尻18番地に出生
明治28年 (1895) 3月31日	宮城県志田郡三本木村立尋常高等小学校卒業
11月10日	検定試験により尋常小学校本科准教員免許状授与
明治29年 (1896) 3月	(形式上) 福島民報社長小笠原貞信の養女となる
4月 1日	福島県尋常師範学校入学
明治32年 (1899) 3月30日	福島県師範学校卒業 (第六回卒, 女子17名)
3月31日	高等小学校本科正教員免許状授与
4月 1日	福島県安達郡油井村立尋常高等小学校訓導
明治33年 (1900) 4月10日	女子高等師範学校文科入学
明治37年 (1904) 3月27日	女子高等師範学校文科卒業
4月 6日	石川県立高等女学校教諭
8月14日	体操遊戯講習証書授与
明治39年 (1906) 8月14日	体操遊戯講習証書授与
明治40年 (1907) 7月13日	高知県へ出向を命ぜらる
7月22日	高知県師範学校教諭兼舎監に任ぜらる
明治42年 (1909) 2月12日	二階堂姓に復籍
明治44年 (1911) 3月31日	東京女子高等師範学校助教授
大正元年 (1912) 10月 1日	体操研究の為満二年間英国に留学を命ぜらる
11月21日	本邦出発
大正 2年 (1913) 1月16日	英国ケント州キングスフィールド体操専門学校, ロンドン・サウスウエスタンポリテクニク体操専門学校, ロンドン・バーミンガム体操専門学校, ロンドン・ベッドフォード体操専門学校及スコットランド・ダムフハーミリン体操専門学校で大正 4年 2月22日まで修業
大正 4年 (1915) 4月27日	帰朝
5月 4日	第六臨時教員養成所教授兼東京女子高等師範学校教授
大正 6年 (1917) 8月27日	『体操通俗講話』刊行
9月23日	『足掛四年—英國の女學界—』刊行
大正 7年 (1918) 5月15日	『男女幼學年兒童に科すべき模擬体操の實際・全』刊行
大正10年 (1921) 5月	『わがちから』創刊
大正11年 (1922) 4月15日	東京府下代々木山谷425番地に二階堂体操塾創設, 塾長
大正12年 (1923) 9月 1日	関東大震災のため塾舎半倒壊
大正13年 (1924) 1月25日	東京府下松沢村松原717番地に移転
大正14年 (1925) 1月	『わがちから』を『ちから』と改題
大正15年 (1926) 3月24日	日本女子体育専門学校に昇格, 校長, 理事長
昭和 2年 (1927) 4月	『ちから』51号で月刊廃止, 臨機発刊とする
昭和 3年 (1928) 6月 5日	中等教員の無試験検定認可
昭和15年 (1940) 11月30日	「教育ニ關スル勅語渙發五十年」を記念して教育功勞者として文部大臣より表彰される
昭和16年 (1941) 2月11日	女子体育振興会より女子体育功勞者として表彰される
7月17日	逝去, 享年61歳, 理事長に二階堂美喜子就任
11月21日	校長に二階堂清寿就任

*二階堂トクヨの履歴書 (日本女子体育大学資料) および『二階堂学園六十年誌』参照

堂美喜子 (1919-1949)⁵⁴⁾は昭和17年 4月20日例年のように教員の名簿を文部省へ提出した。ところが, 昭和17年 5月20日に芸術舞踊家の石井小浪, 高田せい子, 葛原マサヲの解任報告が提出されている。戦時下の体育を学校体操教授要目に統一しようとする文部省の強力な方針があったので, トクヨの独自のダンス指導は

受け入れられなかったのである。したがって, 昭和17年度から体専のダンス指導は変更された。

なお, 戸倉ハルについては, 卒業アルバム (昭和17年 9月および昭和18年 3月卒業アルバムの合冊) に写真が載っているが, 昭和18年度の教員名簿にはダンス教師として天野蝶, 澁井二夫のみが記載されている。

V. ま と め

トクヨは英国留学で多種類のダンスを研修した結果、ダンスは女子の体操科にとって重要な種目であると認識した。

大正11年に創設した二階堂体操塾では、まず塾生の体格についての研究に取り組んだ。その結果、塾生たちの体格を改善するためにはダンスが効果的であると考へ、英国留学で経験したダンスを主教材に、多種類の運動を配合した多種多様なダンスを指導した。これらのダンスは、当時の学校体操教授要目の遊戯と異なり運動量のある斬新なダンスであった。

大正15年に認可された日本女子体育専門学校では、独自の教授要目を作成し、学校体操教授要目に示された教材の指導だけでなく、ダンスの各分野から一流の舞踊家たちを採用して指導を行った。すなわち、体格の改善をめざし、多種類の運動を配合した多種多様なダンスを指導するという体操塾以来のトクヨの指導理念は貫かれていた。

VI. 謝 辞

本研究に対し、日本女子体育大学松徳会より平成12年度奨励金を授与され、研究を終えることが出来たことを深く感謝する。

注および引用文献

- 1) 片仮名の「トクヨ」が戸籍簿に記された正式な名前である。
- 2) 山本親, 明治37年, 運動會の記: 石川縣立高等女學校同窓會報告 第三號, 5-7. 大森武部, 明治38年, 春季運動會の記: 石川縣立高等女學校同窓會報告 第四號, 8-10. 岡島よし, 明治38年, 秋季運動會の記: 石川縣立高等女學校同窓會報告 第四號, 10-12. 森川數子, 明治39年, 秋季運動會記事: 石川縣立高等女學校同窓會報告 第五號, 14-15. 主馬芳尾, 明治40年, 春季運動會の記: 石川縣立高等女學校同窓會報告 第六號, 16-17.
- 3) 明治3年11月22日秋田久保田城下に生まれる。出生時、「アグリ」と命名される。男児をもうけたいと思っているのに女兒が生まれたときには、その子に「アグリ」という名をつけると、次に男児が生まれる、という迷信による。しかし、井口は「アグリ」が *ugly* に似ていることから、「グ」とにごられることをきらい、明治24年3月2日に「願済字違訂正」をして、「阿くり」と変体仮名を使って改名。秋田尋常師範學校2年終了後、高等師範學校女子部に入学。明治25年卒業後、附属小学校訓導、附属高等女學校教諭を経て山口県私立毛利高等女學校教頭となる。明治32

- 年—明治36年, 米國留学及欧州各地を視察。明治36年—明治44年, 東京女子高等師範學校國語体操專修科主任教授。大正14年—昭和6年, 東京高等実習女學校経営。昭和6年3月26日急逝。一村山茂代, 平成12年, 明治期ダンスの史的研究, 139, 不味堂出版, 東京
- 4) トクヨは「ダンス」を「曲線運動」、「優美体操」、「舞踊」、「舞踏」、「遊戯」、「遊技」などと記している。
 - 5) 二階堂登久 大正6年, 體操通俗講話, 468, 宝文館, 東京
 - 6) スエーデンに生まれる。教師として、また図書館員として働いた後、30歳で The Royal Central Gymnastic Institute に入学。1881年卒業後、ヨーロッパでスエーデン体操の研究およびデモンストレーションをするグループに参加。1881年12月 Lady Superintendent of Physical Exercise to the London School Board の地位に就く。1885年 The Hampstead Physical Training College 創設。1895年大学を Dartford に移転。1895年—1940年, 校名を The Bergman-Österberg Physical Training College とする。1915年7月29日逝去。—Peter Boreham, Sheila Cutler, Betty Lewis, *A Sound Mind in A Sound Body: the Centenary of Madame Bergman-Österberg's College at Dartford*, 参照。
 - 7) The Kingsfield Physical Training College という名称は学生たちが使っていた名称で、正式には The Bergman-Österberg Physical Training College である。
 - 8) Morris Dance は15世紀後半にヨーロッパから移入されたダンスで農民や職人たちによって踊られた。踊り手は特種なコスチュームを着て布や棒を持ち、脚に多数の鈴をつけて踊る本来は男性のダンスであったが、20世紀初頭からは、女子や子どものモリスチームが結成されるようになって、カーニバルなどで踊られている。—Selma Jeanne Cohen (Founding Editors), 1998, *International Encyclopedia of Dance*, Oxford University Press, New York, 参照。
 - 9) Jonathan May, 1969, *Madame Bergman-Österberg: Pioneer of Physical Education and Games for Girls and Women*, 80, George G. Harrap & Co., Ltd., London
 - 10) The Bergman-Österberg Physical Training College の卒業生。—櫻菊女史, 大正6年, 足掛四年—英國の女學界一, 122, 宝文館, 参照。
 - 11) イギリスのフォークダンスや歌の収集家として知られている。イギリス各地を回ってモリスダンス、ソードダンス、カントリーダンスの研究に没頭し、消滅寸前であったダンスや歌の再生を果たした。シャープのもとに多くの友人たちがあつまり、フォークダンスや歌をデモンストレーションするグループを結成した。このような活動によって、かつて田舎で農民や職人たちによって踊られていたダンスは、都会の中流階級の人々の中に浸透していった。そして、1909年には、イングランドやウエールスの公立小学校の体育科に初めてイギリスのフォークダンスが導入された。シャープは、1911年には The English

- Folk Dance Society (1932年には The English Folk Dance and Song Society となる) の Director となった。現在 The English Folk Dance and Song Society は The Cecil Sharp House に本拠をおいている。シャープの著書に Cecil Sharp and Herbert C. Macilwaine, *The Morris Dance 5 vols.*, (London, 1909-1913). 2nd ed., (London, 1912-1924). Cecil Sharp, et al, *The Country Dance Book 6 vols.*, (London, 1909-1927). Cecil Sharp, *The Sword Dance of Northern England 3 vols.*, (London, 1912-1913). 2nd ed., (London, 1951) がある。—Selma Jeanne Cohen (Founding Editors), 1998, *International Encyclopedia of Dance*, Oxford University Press, New York, 参照。
- 12) 櫻菊女史, 大正6年, 足掛四年—英國の女學界—, 278, 宝文館, 東京
- 13) Sword Dance は伝統的にクリスマスに踊られる。特種なコスチュームを着て Long-sword 又は Rapier をもって踊る。ダンスの終わりには剣で複雑な多角形の形をつくって観客に示す場面がある。—Selma Jeanne Cohen (Founding Editors), 1998, *International Encyclopedia of Dance*, Oxford University Press, New York, 参照。
- 14) 内田トハ・御笹政重, 大正14年, 教育ダンス, 143-154, 東洋図書株式合資会社, 東京
- 15) Country Dance の文献は, イギリスのダンスや音楽の収集家で出版業者の John Playford (1623-1687) によって *The English Dancing Master : or, Plaine and easie Rules for the Dancing of Country Dance, with the Tune to each Dance* (1651) として出版されたのが最初である。シャープはカントリーダンスの研究と再生にもかかわった。—Selma Jeanne Cohen (Founding Editors), *International Encyclopedia of Dance*, 1998, Oxford University Press, New York, 参照。
- 16) 前掲12), p.278
- 17) 「外国留學生申報書」によると9月とあるが, 前掲12), p.279によると8月と記されている。
- 18) 前掲12), p.279
- 19) 同上, p.319
- 20) 封筒紛失のため正確な年月日は不明であるが, 手紙の内容からみて大正3年3月に記されたもの。
- 21) Hornpipe は足が素早く床を打つ音を強調したソロダンスでクログダンス (Clog Dance) に代表される。現在のタップダンスへと発展した。—Selma Jeanne Cohen (Founding Editors), *International Encyclopedia of Dance*, 1998, Oxford University Press, New York, 参照。
クログダンスについては前掲14), pp.180-187に踊り方の説明がある。
- 22) 前掲14), pp.98-100
- 23) イギリス Wales (Great Britain 島の南西部) 地方のダンス。
24) 前掲14), pp.159-165
- 25) 前掲12), p.319
- 26) 「外国留學生申報書」に記したトクヨによる訳語で National Dance のこと。イギリスではモリスダンスやソードダンスなどの古くから伝承されているダンスをナショナルダンスと呼ぶ。国家がそのダンスをサポートしているという意味ではない。
- 27) 前掲12), p.316
- 28) ロシア生まれのダンサー, 振付家。1900年 The Imperial School of Ballet, St. Petersburg に入りバレエを学び, 1908年にデビューした。Serge Diaghilev に認められ Diaghilev の Ballet Russes のダンサーとして, ニジンスキーの名声はヨーロッパやアメリカ大陸に広まった。1912年より振付家として *The Afternoon of a Faun* や *Rite of Spring* を発表。従来のバレエを越えた革新的な作品で, 多くの話題や論争を巻き起こした。デビューから9年間の活躍後, 精神の病のためにバレエ界から遠ざかった。—Ferdinand Reyna, 1974, *Concise Encyclopedia of Ballet*, Follett Publishing Company, Chicago, 参照。
- 29) ロシア出身のバレリーナ。The Imperial School of Ballet, St. Petersburg で学ぶ。
1914年自分のバレエ団を結成, 1919年から1931年の間ロシアを除く世界各地を巡演してバレエ芸術の伝道者といわれた。「瀕死の白鳥」は, 天才的な振付家 Michel Fokine (1880-1942) によってバヴロワのために1905年に振付けられ, 絶賛を博した作品である。—Ferdinand Reyna, 1974, *Concise Encyclopedia of Ballet*, Follett Publishing Company, Chicago, 参照。
- 30) デンマーク生まれのバレリーナで Dame of Order of the British Empire の称号を授与された。1888年にデビュー後, *Coppelia* のバレリーナとして知られる。1917年にリタイヤーしたが, 1932年と1933年に Anton Dolin と再びステージに立った。1920年ロンドンの Association of Operatic Dancing の President に選ばれる。The Camargo Society 創設メンバーの一人である。—Ferdinand Reyna, 1974, *Concise Encyclopedia of Ballet*, Follett Publishing Company, Chicago, 参照。
- 31) イタリアのローマに生まれる。チェケッティ (Enrico Cecchetti, 1850-1928) に師事。東南アジアやヨーロッパでダンサーとして活躍後, 1900年代の初頭にイギリスに渡りロンドンの The His Majesty's Theatre のバレエ・マスターをしていたという。1912年(大正元年)10月来日して帝劇歌劇部でバレエを教える。1916年夏歌劇部は解散。自ら劇場ローヤル館を開場しオペレッタの上演を続けたが, 1918年ローシーは経営難から劇場を閉鎖してカリフォルニアに渡り, 再び日本を訪れることはなかった。—上野房子, 1992, 日本初のバレエ教師 G.V.ローシー 来日前の歩みを探る: 舞踊學 第14号, 舞踊学会, 1-11, 参照。
- 32) 前掲12), p.327
- 33) 前掲20)
- 34) トクヨの二歳年下の弟。トクヨの死後, 昭和16年11月21日より日本女子体育専門学校校長, 日本女子体育短期大

- 学学長、学校法人二階堂学園理事長、日本女子体育大学学長、学校法人二階堂学園総長と、長年要職にあって学園の発展につくした。一二階堂学園、昭和57年、二階堂清寿、不味堂出版、参照。
- 35) キングスフィールドより広島市、清寿殿、大正3年3月記
- 36) 同上
- 37) 前掲12) pp.207-208
- 38) ロンドンより広島市、清寿殿、大正4年1月10日記
- 39) 大正時代末ごろまでの女子青年団体の一般的呼称。明治30年前後から農村中心に組織され始めた。当初は、その性格・目的も一様でなかった。大正15年11月に女子青年団体の全国的組織化を狙った浜口雄幸内相と岡田良平文相の共同訓令「女子青年団体ニ関スル件」がだされると処女会は女子青年団と呼ばれるようになり、その性格も、伝統的婦徳の涵養を下敷きにした国民的自覚と国策協力の重要性を喚起する場とされていく。さらに昭和2年4月には女子青年団の全国的組織として大日本連合女子青年団が発足する。一国史大辞典編集委員会、昭和61年、國史大辞典、吉川弘文館、東京、参照。
- 40) スプリングフィールド YMCA カレッジ卒業。東京 YMCA 体育部名誉主事 (1917-1929)。寺崎謙太郎著『教育的體育ダンスと其指導法』(章華社、大正14年)を校閲。一奈良常五郎、昭和34年、日本 YMCA 史、210、日本 YMCA 同盟、東京、参照。
- 41) 大正11年10月10日発行、見えずいて心細い：わがちから、16
- 42) 西村絢子、昭和58年、体育に生涯をかけた女性—二階堂トクヨ—、179、杏林書院、東京
- 43) 宮城県生まれ。明治26年日本遊戯調査会を設立し遊戯研究に力を注ぐ。女子高等師範学校、日本体育会体操学校で教師をつとめる。明治35年には私立東京女子体操・唱歌学校(現・東京女子体育大学)設立にかかわり、第3代校長となる。明治39年に渡米。大正2年シアトルで客死。主著として、依田直伊との共著で『音楽應用女子遊戯法』(山海堂書店、明治33年)、および『理論實際小學遊戯教科書理論の部』(榊原文盛堂、明治39年)、『理論實際小學遊戯教科書尋常の部』(榊原文盛堂、明治39年)など多数。一村山茂代、平成12年、明治期ダンスの史的研究、64、不味堂出版、東京
- 44) 千葉県に生まれる。明治11年体操伝習所創設にともないリーランドの通訳となる。明治14年リーランド帰国後、体操伝習所にて体操指導にあたる。明治18年体操伝習所廃止後、明治19年高等師範学校で体操指導、第一高等中学校兼務。明治21年東京高等女学校兼務。明治23年高等師範学校および女子高等師範学校教授となる。明治33年東京音楽学校で方舞の教授を嘱託される。明治34年2月9日欧州留学に出発。明治35年6月帰国後東京高等師範学校体操専修科主任教授、明治37年文部省の体操遊戯取調委員となる。明治42年東京高等師範学校および東京女子高等師範学校退職。明治43年より私立東京女子体操音楽学校で教える。大正11年私立東京女子体操音楽学校の名誉校長となる。大正11年11月2日死去。一村山茂代、平成12年、明治期ダンスの史的研究、89、不味堂出版、東京
- 45) C.ヘスリング原著、坪井玄道・可兒徳共譯『女子運動法』(大日本圖書株式会社、明治36年、496p)として翻訳されている。
- 46) 高橋忠次郎、明治35年、女子體育獎勵之歌 附遊戯法、緒言、榊原文盛堂、東京
- 47) 『わがちから』に発表した塾生の体格についての主な研究
「塾生の体格」『わがちから』(大正11年6月10日発行)
「塾生の体格(承前)」『わがちから』(大正11年7月10日発行)
「日本婦人と西洋婦人との体格比較」『わがちから』(大正11年10月10日発行)
「入塾六ヶ月後に於ける塾生の体格」『わがちから』(大正11年12月10日発行)
「日本婦人の發育上の缺陷」『わがちから』大正11年11・12月号、(発行日不詳)
- 48) 大正11年11・12月号(発行日不詳)、日本婦人の發育上の缺陷：わがちから、26-27
- 49) 大正11年7月10日発行、塾生の体格(承前)：わがちから、18
- 50) 前掲48) p.31
- 51) 同上、p.32
- 52) 大正11年7月10日発行、二〇より三〇歳に至る體育法：わがちから、29
- 53) 大正11年4月10日発行、塾の教官：わがちから、14
- 54) トクヨの妹村田とみ(1889-1954)の次女。昭和16年日本女子大学家政科卒業。岩佐高等女学校に就職するが、トクヨの病のため退任。トクヨの養女(昭和16年4月24日届出)となる。

(平成15年9月17日受付)
(平成16年1月15日受理)